

IPM実践指標(なし)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草、中間宿主(赤星病ビャクシン類)や害虫の寄生植物(ナシヒメシロイ核果類)を除去し、病害虫や雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点		
	被害部位の除去	せん定時などに発生源となる病害虫の被害枝葉、被害果および落葉等は集めて処分する。	1点		
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に掛かりにくい強健な作物栽培に心がける。肥料は、樹勢や樹齢等を考慮して分施する。	1点		
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備するなどの改善を行う。	1点		
	植付時期	健全な苗木を植え付け、幼苗期に、極端に寒い時期には、こも等で防寒をしたり、防風対策を行う。	1点		
	栽植密度	細部まで光が届くように適正な樹間を保つとともに、整枝、剪定を行い、通風をよくする。	1点		
	適正な換気	施設栽培では内部が加温とならないように適正な換気を行う。	1点		
	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点		
		フェロモントラップを設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点		
		近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点		
	作物の観察	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点		
	地域での防除	地域で防除農薬や防除時期について検討し、一斉防除をおこない、病害虫の密度をさげる。	1点		
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前後で最低1回はクモ等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	1点		
	農薬の使用全般	樹齢や栽植密度などを勘案して、十分な薬効が得られる使用量と最適な散布方法を検討する。	1点		
		農薬散布を実施する場合には、隣接して栽培する作物への飛散防止がないよう適正な措置を講じる。	1点		
		薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。	1点		
個別項目	作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMIに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点		
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点		
	赤星病	防除適期を逸しないように萌芽・開花状況等の生育状況を観察するとともに発生に注意し、適期防除に努める。	1点		
	黒星病	防除適期を逸しないように生育状況を観察するとともに発生に注意し、適期防除に努める。	1点		
		新梢停止が遅れると葉りん片の感染期間が長くなるので、多肥栽培は避ける。	1点		
	黒斑病	枝が二度伸びしないように肥培管理に注意する。	1点		
	輪紋病	防除適期を逸しないように5～7月(感染期)に発生に注意し、適期防除に努める。	1点		
	うどんこ病	防除適期を逸しないように初発生の6月上旬頃と梅雨明けに発生に注意し、適期防除に努める。	1点		

IPM実践指標(なし)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
個別 項目	心腐れ症(胴枯病菌)	胴枯病患部を取り除き、塗布剤で保護する。また、満開期～満開40日前後に薬剤散布する。	1点			
		上向き果実に発生が多いため、摘果時に横～下向きの果実を残す。	1点			
	萎縮病	罹病枝の剪除等でできた大きな切り口や上面の切り口は塗布剤で保護する。	1点			
	白紋羽病	罹病程度の激しい樹は細根まで抜き取り、跡地に山土または水田の土を客土する。また、軽症樹は着果数を減らし、重症樹は着果させないように結果枝をせん除する。	1点			
	ナシヒメシンクイ	交信かく乱剤を設置し、発生密度の抑制を図る。	1点			
	クワコナカイガラムシ	9月下旬に誘引バンドを幹に設置し、誘引された幼虫を冬期に殺処分する。また、冬期にマシン油剤を散布する。	1点			
	ハマキムシ類	見つけ次第捕殺する。発生初期に生物農薬(BT剤)を散布する。	1点			
	アブラムシ類	発生状況に注意し、発生初期に薬剤防除を行う。	1点			
	カメムシ類	発生状況に注意し、発生初期に薬剤防除を行う。	1点			
	ヒメボクトウ	梅雨期、秋雨期等の少雨あるいは曇天日に、木屑排出孔を中心に昆虫病原性線虫剤を薬液が滴るまで散布または樹幹注入する。食入初期の発生に注意し、発見次第、食入箇所を切除処分する。	1点			
		交信かく乱剤を設置し、発生密度の抑制を図る。	1点			
	ハダニ類	初秋に誘引バンドを太えだに設置し、誘引されたハダニを冬期に殺処分する。また、冬期にマシン油剤を散布する。	1点			
			合計 点数			
			対象 IPM計			
			評価結果			